

『乗務員運用合理化』 =『35万人体制攻撃』粉碎にむけ 交渉強化を確認

日刊 勤労千葉

80.2.18
No. 353

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八(動力車会館)
鉄電二二五八・九(公衆電話二二七二〇七)

2/14, 15 '79年度交渉部長会議開催される。

勤労千葉は、2月14、15日の両日、御宿、外房荘において一九七九年度交渉部長会議を開催した。この会議は、いうまでもなく今日、国鉄労働者に加えてきてきている大合理化＝国鉄35万人体制攻撃のもつ狙いを具体的にあげき出しこれに全面対決し、現場生産点の闘争体制と対局交渉体制を一層強化し、550を待たずして先制攻撃の陣いをいかに構築するのなごを中心とする多くの活発な意見が交わされ、又、現在内房線を軸に長期強靱に闘いぬかれている「オニ」二次反合運動保安闘争の重要な意義を再確認し、一層強化する方針を確認し、成功裡のうちを終了した。

日常的な陣いの強化をとおって 万全の反撃体制を！

＝山口交渉部長あいさつ＝

会議はオニ日13時30分、本部高橋執行委員の開会の挨拶より始められ、座長には白石乗務員分科会長を選出し、議事に入った。

冒頭、山口交渉部長から「今日われわれをとりまく情勢は非常にきびしい。国鉄経営の抜本的改変・労組破壊の国鉄35万人体制攻撃と鋭く対決し、生産点での日常的な大衆的な陣い、活動の強化を通して万全の反撃体制を築いていく」との決意を含めた挨拶が行われた。議題に入って

- ① 国鉄35万人体制粉碎に向けた取り組みと当面する交渉事案。
- ② 反合・運転保安。
- ③ 業務活動の強化。
- ④ 80春南賃金引き上げ要求額調査に突する中間報告。

「35万人体制」粉碎と結合して、諸要求の解決を

＝多岐にわたる熱心な討論＝

オニ日、オニ日、両日の大半を費して続けられた質疑は、35万人体制をいかに粉碎するのか、その原動力ともいえる日常的な交渉体制の強化、充実にどうはかかってゆくのかが集中して論議された。

オニ日には関川委員長より挨拶をうけ、共に討論に参加する中で多くの中広の内容にわたって議論は、はいまで続けられた。

- ① 時運補充ニ各現場の母体確保。
 - ② 退職年金延長に各現場の母体確保。
 - ③ 賃金切り下げ、賃金対策。
 - ④ 乗務員新養成体系実施の問題点。
 - ⑤ 運転保安問題と線路改善。
 - ⑥ 三ノ丸線廃止反対の陣い。
 - ⑦ 佐倉をはじめとする各貨物基地の将来展望。
 - ⑧ 運転事故問題と対策。
 - ⑨ 京葉線、外房線復線化関連。
 - ⑩ 養成区のある方、進修教育問題。
- などの当てる事案、進修構想も出される中で、結論として「こうした諸要求の解決が「35万人体制」粉碎との有機的関連としてあること」が確認され、陣いの一層の強化を望まれた。

「本部革新」反動集団の裏切り路線を粉碎して、全力で「550」の「改」阻止へ

全組合員が「550」の「改」阻止へ、一月以降長期強靱に陣い続けられている内房線オニ二次反合運動保安闘争の体制を強化し、「35万人体制」粉碎の突破口をきり開こう。「国電乗務員運用合理化」に暴露された「本部革新」反動集団の「35万人体制」協力路線を弾劾し、ハードルを振り、旗を持ち、ハンマーをもって、自らの取組、労働条件を守り、抜いてゆくために全力で陣いぬいていこう。